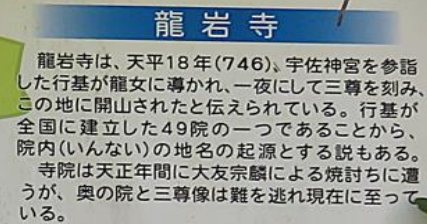


宇佐市院内町の観光案内図/龍岩寺にある奥院礼堂は大分県内では唯一の鎌倉時代の木造建築で、岩窟内に懸造りで建てられており、日本三大投入堂の一つとされる



龍岩寺奥の院礼堂（国指定重要文化財）
奥の院礼堂は県内唯一の鎌倉時代の木造建築で、岩窟内に懸造りで建てられている。
正面3間、側面2間の礼堂で、正面には格子の藪戸（しとみど）が入れてある。正面奥には三尊を保護する格子戸が入り、これを隔てて参詣できるようにになっている。



木造阿彌陀如来坐像・木造薬師如来坐像
・木造不動明王坐像（国指定重要文化財）

奥の院礼堂内には、向かって右から順に、薬師如来（像高305cm）、阿彌陀如来（像高293cm）、不動明王（像高282cm）の坐像が安置されており、例の少ない三尊の配列となっている。

いずれも樟材の一本造りで、平安時代後期の作と見られている。

近くにはこんな看板もあった・・・



ここが龍岩寺参道入口



龍岩寺本堂



その左手に、龍岩寺所有の文化財についての説明板が立っていた



県指定有形文化財

(昭四九、三、一九指定)

木造十二神将

龍岩寺所有

十二神将は、十二夜叉大将

または十二神王とも言われ

薬師経を信奉する者を譲る

十二の夜叉神で薬師如来の

眷属もしくはその化身である

ともされ頭部に十二支が

彫られている。

いずれも三〇センチメートル

余りの小像で一木造りである。

奥院礼堂内には開祖行基が守護神万力坊の援助を受け、一夜にして彫ったと伝えられる三体の仏像が安置されている

市指定有形文化財

(昭五十、五、二三指定)

「略縁起」木版(二枚) 龍岩寺所有

享保二十年作と伝えられ内容は

「天平一八年僧行基諸国修業の折

宇佐神宮参籠のみぎり竜女に

導かれ大門村仙人屈に到り、

当山守護神万力坊の援助を受け

午の宮の楠の大木を切り一木三体の

仏像を一刀三礼にて一夜のうちに

彫刻し……」と書かれていた。

そこから裏山を登って行く/奥の院まで200m



行き先表示板には「萬力坊大権現」とある/前方は岩のトンネルとなっている



そこで左方向を見ると奥院礼堂が見える



近寄って見上げたところ



石碑と説明板がある



手前に斜めに架け渡された梯子状の板が「きざはし」で、三体の仏像を刻んだ残りの丸太を削って作られたものと伝えられている原始的作法の階段で、全国でも伊勢神宮とここだけにしかない大変珍しい遺構で往時は参詣道として利用されていたという

市指定有形文化財

(昭五十、五、二三指定)

きざはし

龍岩寺所有

三体の仏像を刻んだ残り木を
荒削りして作った原始的作法の
階段で伊勢神宮に類を見るだけ
の遺構で往時は参詣道として
利用されていた。

アップで見たところ/現在は立ち入れ禁止となっており、「きざはし」で奥院礼堂へは登れない

[video](#)



その左手には三体の仏像と奥院礼堂についての説明板があった



国指定重要文化財

(昭二五、八、二九指定)

木像薬師如来座像

像高三、〇六M 膝張二、二三

木像阿弥陀如来座像

像高二、九四M 膝張二、一五

木像不動明王座像

像高二、八三M 膝張二、二一

三像とも胴まわり三、三M
の素木造りで、僧行基の作と
されている。

国指定重要文化財

(昭二九、九、一七指定)

龍岩寺奥院礼堂

懸造、桁行三間

梁間二間、片流板葺

(鎌倉時代)

棟木下端に「奉修造岩屋堂一字□□□□

弘安九年丙戌二月二十二日□□□□

大旦那沙弥」の墨書銘あり。

「きざし」は登れないので、先程の岩のトンネルを通して登って行く

 [video](#)



奥院礼堂が見えて来た



ここが奥院礼堂



そこで、左下を見下ろしたところ/先程、奥院礼堂を見上げていた所が見える

 [video](#)



振り返って、登ってきた通路を見たところ

 video



これは奥院礼堂の内部

 video



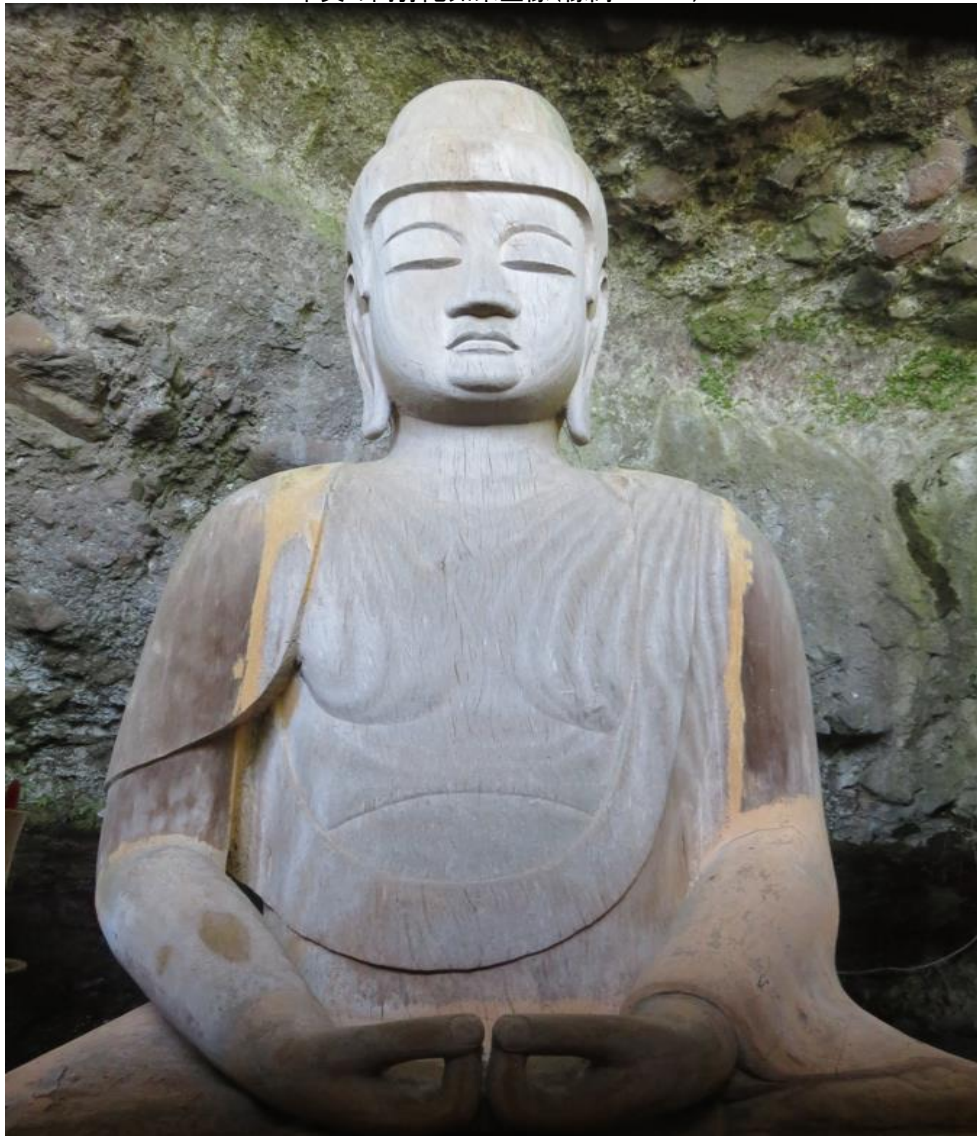
三体の仏像の写真が掲示されていた



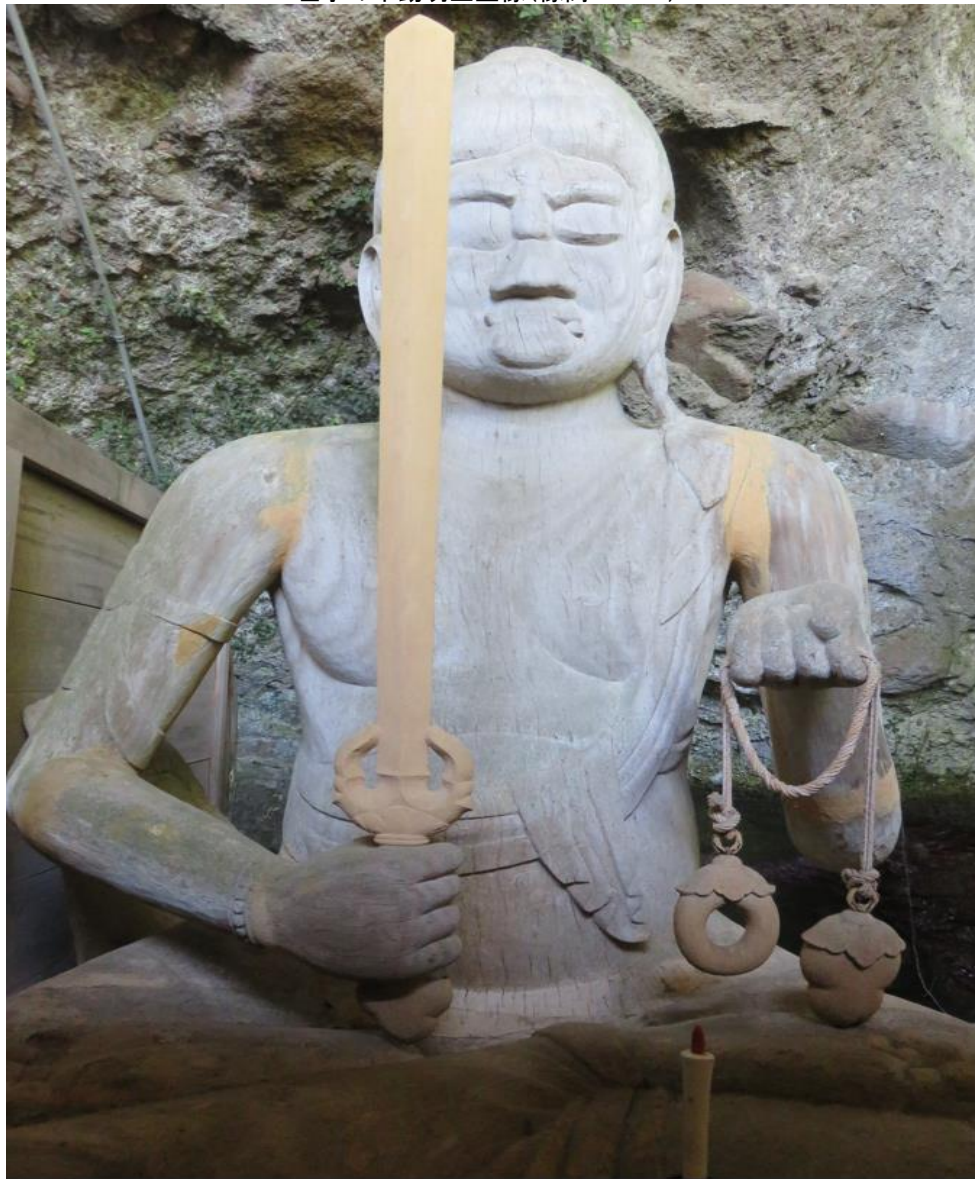
この正面に三体の仏像が安置されている/格子戸を隔てて参詣できるようになっている/いずれも一本の樟の木から使られた一木造りで、平安時代後期の作



中央の阿弥陀如来坐像(像高293cm)



左手の不動明王坐像(像高282cm)



右手の薬師如来坐像(像高305cm)



